

科目名	成人・老年看護方法Ⅳ(緩和) Adult・Gerontological Nursing Ⅳ		担当教員 (研究室番号)	大川 明子(305) 清水 律子(506) 田端 真(308) 船尾 浩貴(302)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	3年次 前期	科目 区分	専門科目		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(30)	授業 形態	演習	科目等 履修生	否
											オープンクラス	否
科目 目的	成人・老年期における緩和ケアの概念を知り、多面的な場面においてがん患者とその家族に向き合いながら全人的苦痛を捉え独創的な援助する能力を養う。											
ディプロマ・ ポリシー (DP)	主要なDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
	関連するDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。(技能・表現) F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
到達 目標	1. 緩和ケアの歴史と現状を知り、緩和ケアの概念について説明できる。 2. 緩和ケアに必要なコミュニケーション技術を知り、患者・家族への心理的・社会的・スピリチュアル的苦痛の援助について説明できる。 3. 身体症状の特徴を知り、症状マネジメントと援助について説明できる。 4. 高齢者の緩和ケアの概要を知り、疾患や障害をもつ高齢者の緩和ケアについて説明できる。 5. 急性期における患者と家族の緩和ケアの特徴について説明できる。 6. 最期のときを迎える患者と家族への援助について説明できる。											
成績評価方法 (基準)	筆記試験70%、課題成果30%											
再試験の有無と 基準等	定期試験を受験し不合格となった場合、再試験を実施する。再試験は筆記試験のみとする。											
教科書												
参考書等	系統看護学講座 別巻 緩和ケア(医学書院)、がん看護学(ヌーヴェルヒロカワ) がん医療・がん看護(南山堂) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論(医学書院)											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	本科目は人間の痛みや人生最期の場面にかかわる援助を学ぶことから辛い体験となる可能性があります。何か困ったことがあれば相談してください。しかし、大学生の皆様への死の準備教育としても重要な位置付けとして学びを深めてください。											
備考												
回	学習項目			学習内容				主担当 教員	授業 方法			
1回	緩和ケアの歴史と現状			緩和ケアの歴史、背景、理念と、日本における緩和ケアの現状と課題について学ぶ。 緩和ケアにおける全人的苦痛の概念について学ぶ。				大川	講義			
2回	緩和ケアにおけるコミュニケーションと意思決定支援			緩和ケアにおける悪い知らせの伝え方を学ぶ。 意思決定を共有するためのコミュニケーションスキルを修得する。 自己決定の実現に向けたアドバンスケアプランニングを学ぶ。				大川	講義			
3回	緩和ケアにおける倫理的課題			緩和ケアにおいてSOL(Sanctity of life)「生の尊厳」とQOLの理解を深め、倫理的課題を考える。 「症例検討シート」を用いて倫理的問題について考える。				大川	講義			
4回	緩和ケアにおける身体的援助			緩和ケア病棟で実践している嚥下に関する援助について、摂食・嚥下障害看護認定看護師から実際の食事援助について学ぶ。				学外協力者/大川	講義			
5回	緩和ケアにおける身体的援助			主な身体症状(がん疼痛、がん関連倦怠感、がん食欲不振・悪液質、悪心・嘔吐、腸閉塞、便秘、腹水、呼吸困難、胸水、口内炎など)マネジメントについてグループで調べる。				大川	演習			
6回	緩和ケアにおける身体的援助			主な身体症状(がん疼痛、がん関連倦怠感、がん食欲不振・悪液質、悪心・嘔吐、腸閉塞、便秘、腹水、呼吸困難、胸水、口内炎など)マネジメントについてパワーポイントを用いて発表準備をする。				大川	演習			
7回	緩和ケアにおける身体的援助(発表)			主な身体症状(がん疼痛、がん関連倦怠感、がん食欲不振・悪液質、悪心・嘔吐、腸閉塞、便秘、腹水、呼吸困難、胸水、口内炎など)マネジメントについてグループ発表する。				大川	演習			
8回	高齢者における緩和ケア①			高齢者への意思決定支援や緩和ケアの特徴について学ぶ。				清水	演習			
9回	高齢者における緩和ケア②			高齢者に多くみられる難治性の疾患およびその緩和ケアについて学ぶ。				田端	講義			
10回	高齢者における緩和ケア③			認知症の人への意思決定支援や緩和ケアの特徴について学ぶ。				清水	演習			
11回	急性期における緩和ケア			急性期ならびにクリティカルな状態にある患者と家族の緩和ケアの特徴について学ぶ。				船尾	講義			
12回	緩和ケアにおける社会的			緩和ケアにおける社会的苦痛を知り、看護援助について学ぶ。 緩和ケアチームによるアプローチを知る。				大川	講義			
13回	緩和ケアにおける心理的・スピリチュアルケア			緩和ケアにおける心理的・スピリチュアルな苦痛を知り、看護援助について学ぶ。 緩和ケアチームによるアプローチを知る。				大川	講義			

14回	最期のときを迎える人と家族の看護	ターミナルステージの患者・家族の心理プロセス（予期的悲嘆も含む）を知り、看護援助について学ぶ。	大川	講義
15回	緩和ケアの実際	緩和ケア病棟で実践している専門家（がん看護専門看護師）から実践について学ぶ。	学外協力者/大川	講義

学 習 課 題				
授業回数	事前・事後学習	学習内容	提出方法	
1回	事前学習	本科目シラバスを精読しておく。 なお、本授業時シラバスを持参すること。		
	事後学習	「全人的苦痛」についてまとめておく。	自己ノートにまとめておく。	
2回	事前学習	「意思決定支援」についてまとめておく。	自己ノートにまとめておく。	
	事後学習	「緩和ケアにおけるコミュニケーションスキル」についてまとめておく。	自己ノートにまとめておく。	
3回	事前学習	「症例検討シート」について調べる。	自己ノートにまとめておく。	
	事後学習	事例を用いて「症例検討シート」を活用し、倫理的課題を考える。	自己ノートにまとめておく。	
4～7回	事前事後学習	主な身体症状（がん疼痛、がん関連倦怠感、がん食欲不振・悪液質、悪心・嘔吐、腸閉塞、便秘、腹水、呼吸困難、胸水、口内炎など）マネジメントについてまとめておく。	自己ノートにまとめておく。	
8回	事前学習	高齢者のエンドオブライフケアについて自己学習する。		
	事後学習	高齢者の緩和ケアの特徴を整理する。		
9回	事前学習	肺炎、心不全について自己学習する。		
	事後学習	非がん疾患を持つ高齢者への緩和ケアの特徴を整理する。		
10回	事前学習	認知症の人への終末期看護について自己学習する。		
	事後学習	認知症の人への緩和ケアを整理する。		
11回	事前学習	急性期に生じる痛みについて、成人・老年看護方法Ⅰの授業資料を復習する。「救急・集中ケアにおける終末期看護プラクティスガイド」について調べる。		
	事後学習	急性期における患者と家族の緩和ケアの特徴を整理する。		
12回	事前学習	「緩和ケアにおける社会的ケアの具体例」を挙げておく。	自己ノートにまとめておく。	
	事後学習	事前学習で挙げた緩和ケアにおける社会的ケアの具体例について援助を考える。	自己ノートにまとめておく。	
13回	事前学習	「緩和ケアにおける心理的・スピリチュアルケアの具体例」を挙げておく。	自己ノートにまとめておく。	
	事後学習	事前学習で挙げた緩和ケアにおける心理的・スピリチュアルケアの具体例について援助を考える。	自己ノートにまとめておく。	
14回	事前学習	「予期的悲嘆について」について調べておく。	自己ノートにまとめておく。	
	事後学習	「ターミナルステージの家族への援助」についてまとめておく。	自己ノートにまとめておく。	
15回	事前学習	認定看護師、専門看護師について調べておく。		
	事後学習	本日の学びの感想を書いておく。	自己ノートにまとめておく。	

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。